

3 マラセチアと脂漏性皮膚炎・アトピー性皮膚炎

～どこまで関与しているか？ どのような機序で関与しているか？～

Skin microbiome, *Malassezia* and seborrheic dermatitis/atopic dermatitis

杉田 隆

SUGITA Takashi

明治薬科大学微生物学研究室教授

張 音実

CHO Otomi

明治薬科大学微生物学研究室特任研究員

Summary

マラセチアはヒト皮膚に最も優位に存在する常在真菌であるが、脂漏性皮膚炎やアトピー性皮膚炎(AD)の原因あるいは増悪因子となることがある。脂漏性皮膚炎では、マラセチアが産生するリパーゼが皮脂を分解し、その分解産物であるオレイン酸により炎症が惹起される。ADでは、さまざまなマラセチアアレルゲンがTh2免疫応答の誘導を介してADの増悪に関与すると考えられる。しかしながら不明な点も多く、マラセチアの各々の疾患への関与について現状での知見を述べた。

マラセチア (*Malassezia*)

皮膚に常在する酵母様真菌であり、皮膚真菌叢の大部分を占める。マラセチア属には14菌種が存在するが、このうちマラセチア関連皮膚疾患に大きく関与する菌種は、*M. globosa*と*M. restricta*である。増殖に脂質を必要とする。

リパーゼ

脂質のエステル結合を加水分解する酵素である。皮脂中のトリグリセリドをグリセリンと遊離脂肪酸に分解する。マラセチアはゲノム中に多くのリパーゼ遺伝子を保有しており、その数は*M. globosa*で10、*M. restricta*で15である。

KEY WORDS

マラセチア／リパーゼ／アレルゲン／脂漏性皮膚炎／アトピー性皮膚炎